

電響社グループ3社

# 家電や雑貨 秋冬向け商談会

## コロナ禍対応の新商材多数

電響社グループ3社は18、19日の2日間、秋冬向けの新商品を提案する「2022電響社グループ商談会」を東京都立産業貿易センター浜松町館(東京都港区)で開催している。衛生・清潔やおうち時間の充実など、コロナ禍で変化した生活スタイルへの対応に加え、全般的な物価高が進む中でも付加価値を実感できる新商材の提案を重視した。

## 東京都内で19日まで開催

「来られるお客さまでその力を込めたの」府東大阪市、池田克也は、資源の高騰や円安は、電響社の坂田周平が進行する中でも売れ社社長だ。るような、付加価値を商談会は、電響社と持った新商品を探して大和無線電器(京都市右京区、坂本賀津也社長)、梶原産業(大阪・



自社ブランド「マカフル」の展示コーナー



来場者でにぎわいをみせた「HEROS」コーナー

600人を見込む。初めて利用する会場となった今回、2階と3階の2フロアを使い、新商材を提案している。2階の入り口脇の目につきやすい場所で提案しているのが、自社ブランド「ZEP EAL(ゼピール)」と「macafull(マカフル)」だ。マカフルは、アイロンとスチーマーの2通りで使える商品とし

て、市場で最も軽い約530gを実現した「らっかるスチーマー」を6月上旬に発売する。ゼピールは、DCモーターを採用して風量を高めた壁掛け型脱衣所ヒーターをライオンアップに加えたほか、歯ブラシ2本を同時にUV(紫外線)除菌・乾燥できる「ハブリッシュドライカプセル」も発売予定だ。

文房具を製造・販売するグループ会社のサンノート(大阪府富田林市)も初出展。家電量販店が取り扱う商材を広げる中、商談会で文房具も新たに提案し始めた。同じくグループ会社のアピックスイ

ンターナショナル(大阪府浪速区)は、「SOTOMO(ソトモ)」を立ち上げ、アウトドアシーンで使えるソーラパネル搭載ファン、ポータブルサーキュレーターなど披露した。大和無線は「HEROS(ヒーローズ)」という企画コーナーを展開。炭酸水メーカー「ソーダスパークル」の新商品や、ウルトラファインバブルを含んだ水流で汚れを落とすシャワーヘッド「ミラブルゼロ」、車を5台以上使っている事業所などに2022年10月1日から使用が義務化されるアルコール検知器などを紹介した。

大和無線の坂本社長は「リアルで開催することで新商品の魅力を十分に発信できる」と強調。売れ筋商品の変化を捉え、ニーズに合わせた新商材を提案する考えを示した。

今回から新しく取引を開始した企業は4社。そのうちの1社であるロングフィールド(東京都台東区)は、リュックの背中部分に取り付けるタイプのUSBファンを提案。ほかにもSDGs(持続可能な開発目標)への貢献も視野に、シット(山梨県南アルプス市)のプリンター用リサイクルインクも紹介している。